

NTTコム リサーチ共同調査

都市部に居住する相続人世代の意識調査

～相続人世代の多くで、相続への備えが不足～

目次

調査概要	2
調査結果.....	4
1. 相続にかかる相続人世代とその親における関係性	4
1-1. 親との同居の状況.....	4
1-2. 相続に関する親との相談状況.....	5
1-3. 親の資産の把握状況	6
2. 都市部に居住する相続人世代の出身地との関係性	8
2-1. 地元の金融機関との関係性.....	8
2-1. 地元のイベントに関する意向	9
3. 相続相談に係る相続人世代の意向について.....	11
3-1. 自身の親との相談に係る意向	11
3-2. 相続に関する外部専門家との相談	13
4. 離れて暮らす親に対する不安・課題	14
4-1. 現在直面している不安.....	14
4-2. 健康状態に関する不安.....	14
4-3. 認知症に関する不安	16
5. 離れて暮らす親が保有する資産	18

調査概要

1. 調査対象: NTTコム リサーチ クローズド調査(*1)
2. 調査方法: 非公開型インターネットアンケート
3. 調査期間: 2021年11月26日～2021年11月27日
4. 有効回答者数: 1,057人
5. 標本設計: 以下の市区に在住の50～60代の男女を対象
 - ・東京都:23区
 - ・大阪府:大阪市、守口市、豊中市、吹田市、門真市
6. 回答者の属性(*2) (*3)

【性別】

属性分類	回答者数	割合
全体	1057	100.0
男性	753	71.2
女性	304	28.8

【年齢】

属性分類	回答者数	割合
全体	1057	100.0
50～59歳	581	55.0
60～69歳	476	45.0

【未既婚】

属性分類	回答者数	割合
全体	1057	100.0
未婚	294	27.8
既婚	644	60.9
離婚・死別	119	11.3

【回答者(相続人世代)の資産の状況】

<世帯年収>

属性分類	回答者数	割合
全体	1057	100.0
100万円未満	99	9.4
100～200万円未満	64	6.1
200～300万円未満	102	9.6
300～400万円未満	100	9.5
400～500万円未満	122	11.5
500～700万円未満	137	13.0
700～1,000万円未満	193	18.3
1,000～1,500万円未満	145	13.7
1,500～2,000万円未満	53	5.0

2,000～3,000万円未満	25	2.4
3,000万円以上	17	1.6

<世帯金融資産>

属性分類	回答者数	割合
全体	1057	100.0
100万円未満	209	19.8
100～200万円未満	53	5.0
200～300万円未満	60	5.7
300～400万円未満	42	4.0
400～500万円未満	61	5.8
500～700万円未満	67	6.3
700～1,000万円未満	81	7.7
1,000～1,500万円未満	75	7.1
1,500～2,000万円未満	64	6.1
2,000～3,000万円未満	75	7.1
3,000万円以上	270	25.5

【補足】

(*1) NTTコム リサーチ (<http://research.nttcoms.com/>)

NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社 (<http://www.nttcoms.com/>) が提供する、高品質で付加価値の高いインターネットリサーチ・サービスである。自社保有パネルとして国内最大級の延べ 880 万人の登録モニターを擁し、消費者向け調査から、法人向け調査、グループインタビューまで、さまざまな市場調査ニーズに対応している。(モニターの人数は 2021 年 11 月現在)

(*2) 回答者の属性は、回答者のアンケート上の自己申告に基づいている。

(*3) 回答の構成比は、小数第 2 位を四捨五入しているため、各構成比の合計は 100%にならない場合がある。

調査結果

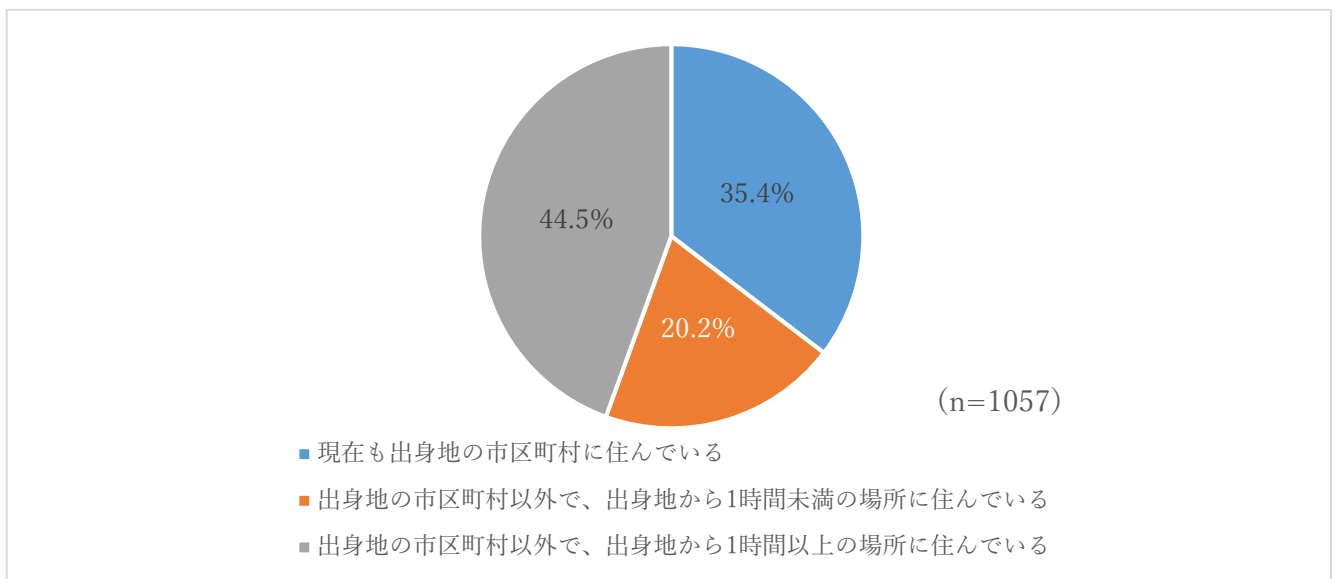
1. 相続にかかる相続人世代とその親における関係性

1-1. 親との同居の状況

◆ 都市部居住の 50～60 代のうち、出身地から 1 時間以上離れて暮らしている人が半数近くに上る

今回の調査対象とした都市部在住の 50～60 代のうち、半数近く(44.5%)が、出身の市区町村から 1 時間以上離れた場所に居住している。

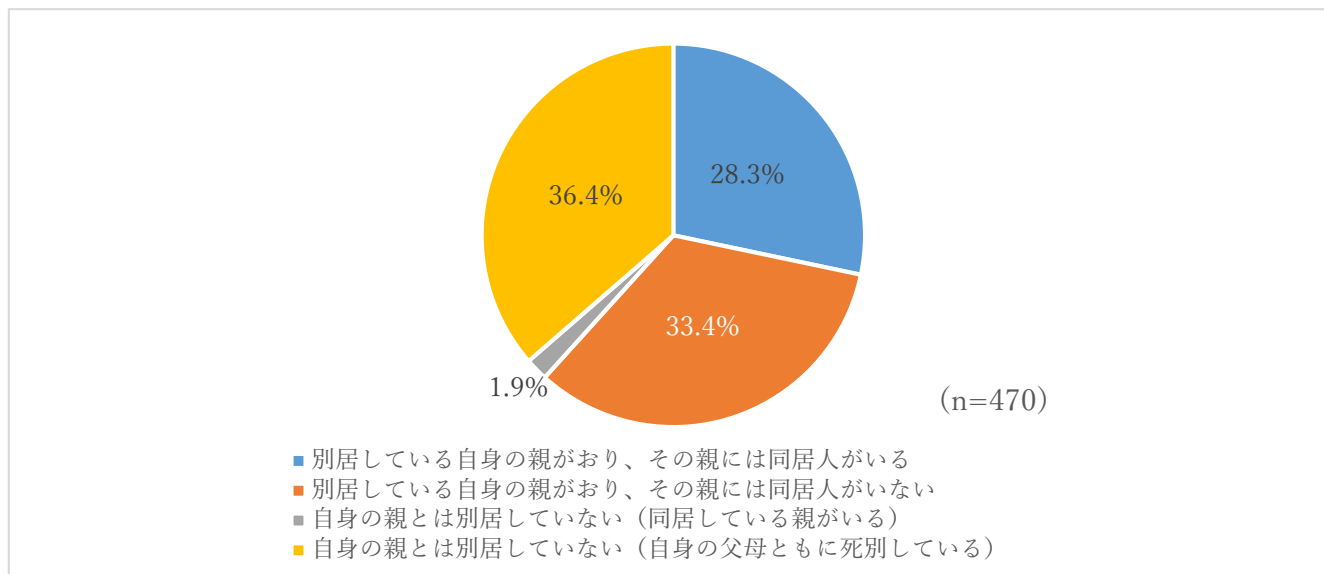
【図表 1-1-1】現在の居住地と出身地との距離



◆ 現在、自身の親と離れて暮らしている人の割合は、6 割超

今回の調査対象とした都市部在住の 50～60 代のうち、現在自身の親と離れて暮らしている人の割合は「別居している自身の親がおり、その親には同居人がいる(28.3%)」、「別居している自身の親がおり、その親には同居人がいない(33.4%)」をあわせ、6 割超に上った

【図表 1-1-2】親との同居の有無

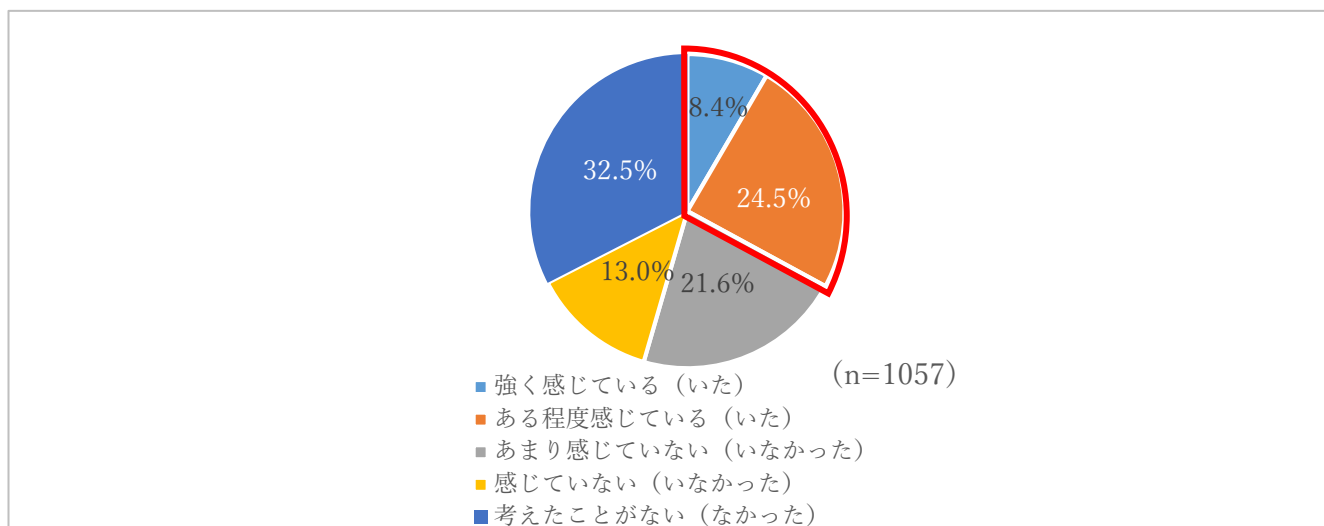


1-2. 相続に関する親との相談状況

- ◆ 相続対策について、自身の親と話し合う必要性をあまり感じていない(いなかった)、もしくは考えたこともなかったとする回答は、全体の7割弱

相続対策(生前贈与や遺言の作成、相続税対策等)について、自身の親と相談する必要性を「あまり感じていない(いなかった)(21.6%)」、「感じていない(いなかった)(13.0%)」「考えたことがない(なかった)(32.5%)」の回答をあわせると約67%に上ることから、相続人世代であっても相続対策への関心が低いことが伺える。

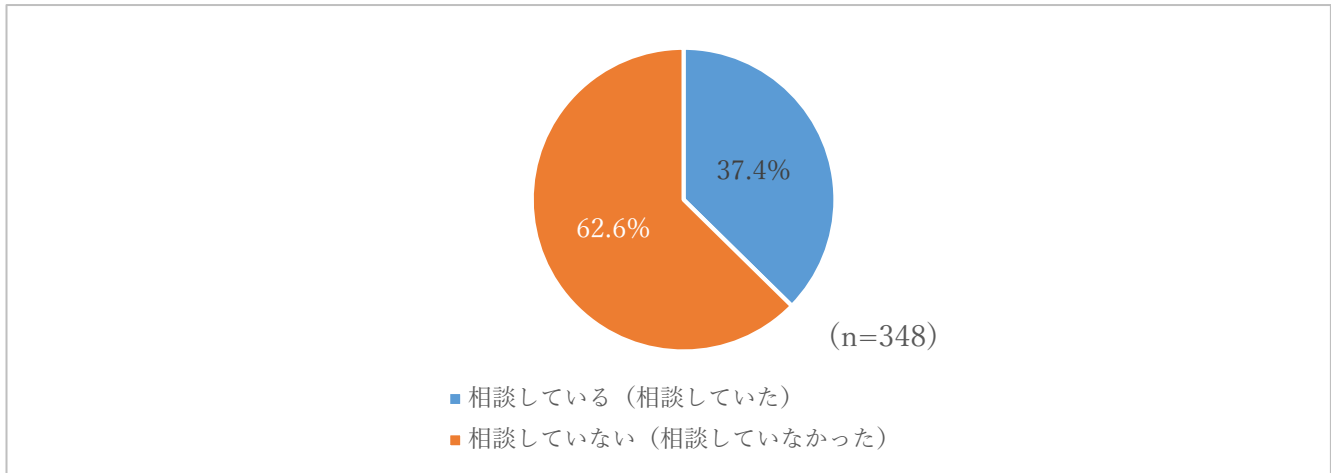
【図表 1-2-1】親との相続に関する相談実施の必要性



- ◆ 必要性を感じている(いた)と回答した人の中で、「相談できていない(いなかった)」とする回答は6割強

また、必要性を感じている(いた)ものの、「相談していない(していなかった)」とする回答は62.6%となり、相談の必要性を感じていても、実際に相談するところまでは至っていない場合が多いことがわかる。

【図表 1-2-3】親との相続に関する相談の実施有無(相続相談の必要性を感じるとした回答者を抜粋)

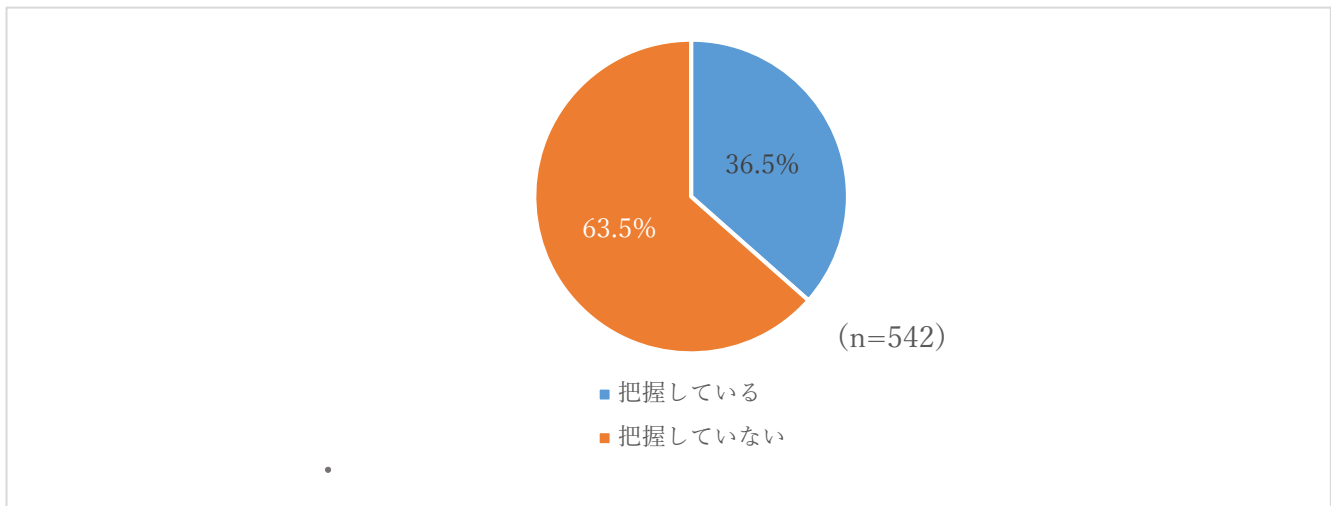


1-3. 親の資産の把握状況

◆ 自身の親と同居していない人のうち、親が保有する資産を把握していない人が約 6 割

自身の親(被相続人)と別居している相続人世代のうち、親(被相続人)の資産を「把握していない」とする回答が約 6 割(63.5%)に上る。

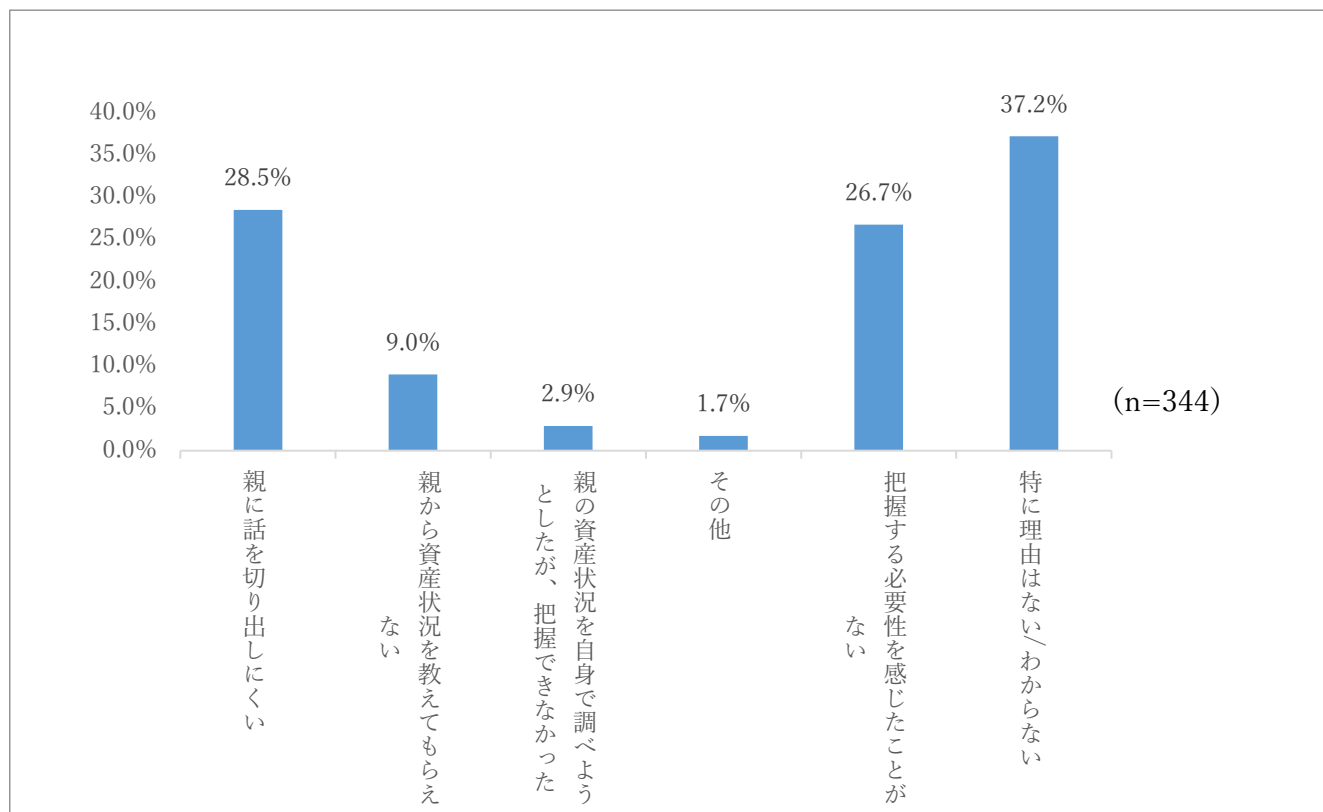
【図表 1-3-1】別居している親の資産の把握状況(別居の親がいるとした回答者を抜粋)



◆ 別居している親の資産を把握していない主な理由として、「親に話を切り出しにくい」が 3 割弱

別居している親の資産を把握していない主な理由は、「特に理由はない/わからない(37.2%)」が最も高く、次いで「親に話を切り出しにくい」が 3 割弱(28.5%) となった

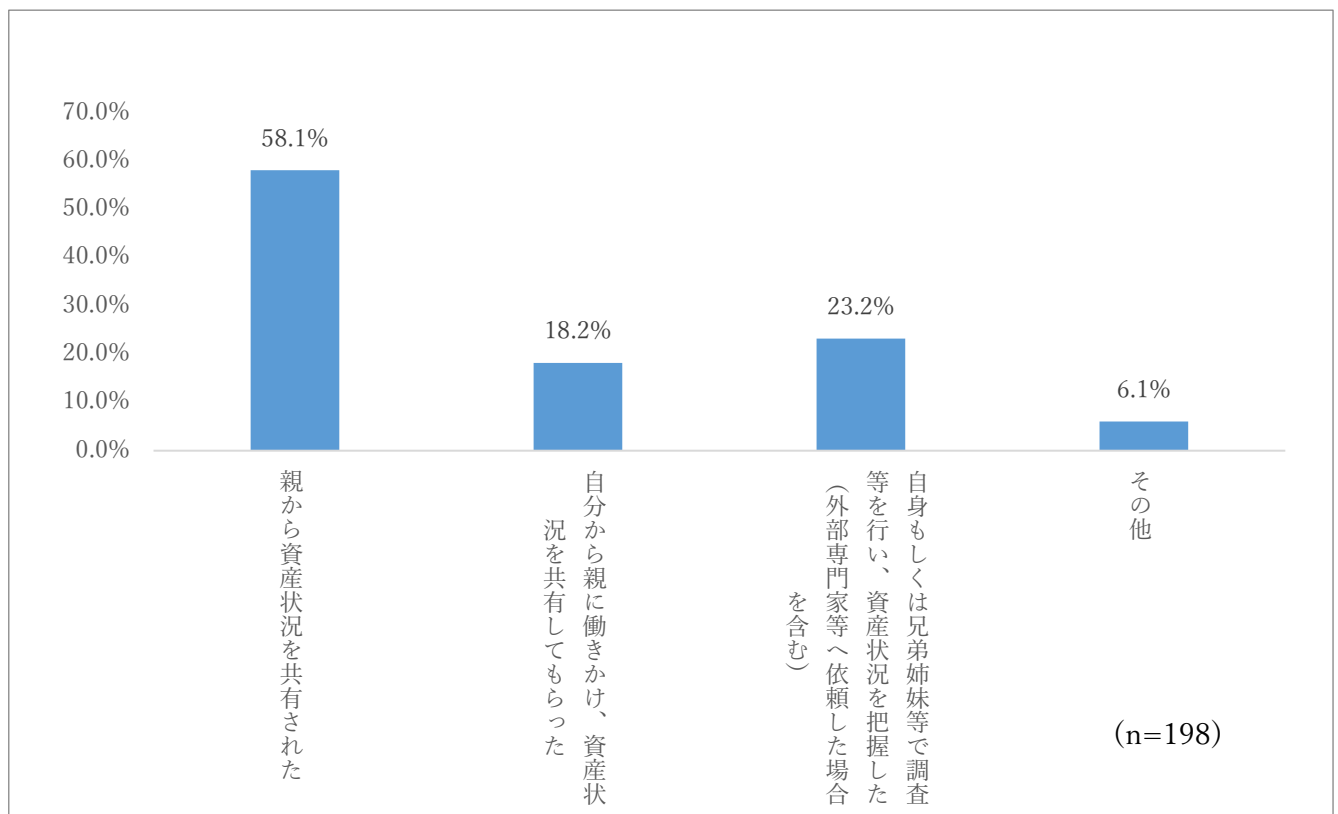
【図表 1-3-2】親の資産を把握していない理由(別居の親がいるとした回答者を抜粋)



◆ 別居している親の資産を把握した理由として「親から資産状況を共有された」との回答が 5 割超

別居している自身の親の資産を把握している理由は「親から資産状況を共有された」との回答が 5 割を超える(58.1%)一方、「自分から親に働きかけ、資産状況を共有してもらった」とする回答は 2 割未満(18.2%)に留まっている。

【図表 1-3-3】親の資産を把握している理由(別居の親がいるとした回答者を抜粋)



2. 都市部に居住する相続人世代の出身地との関係性

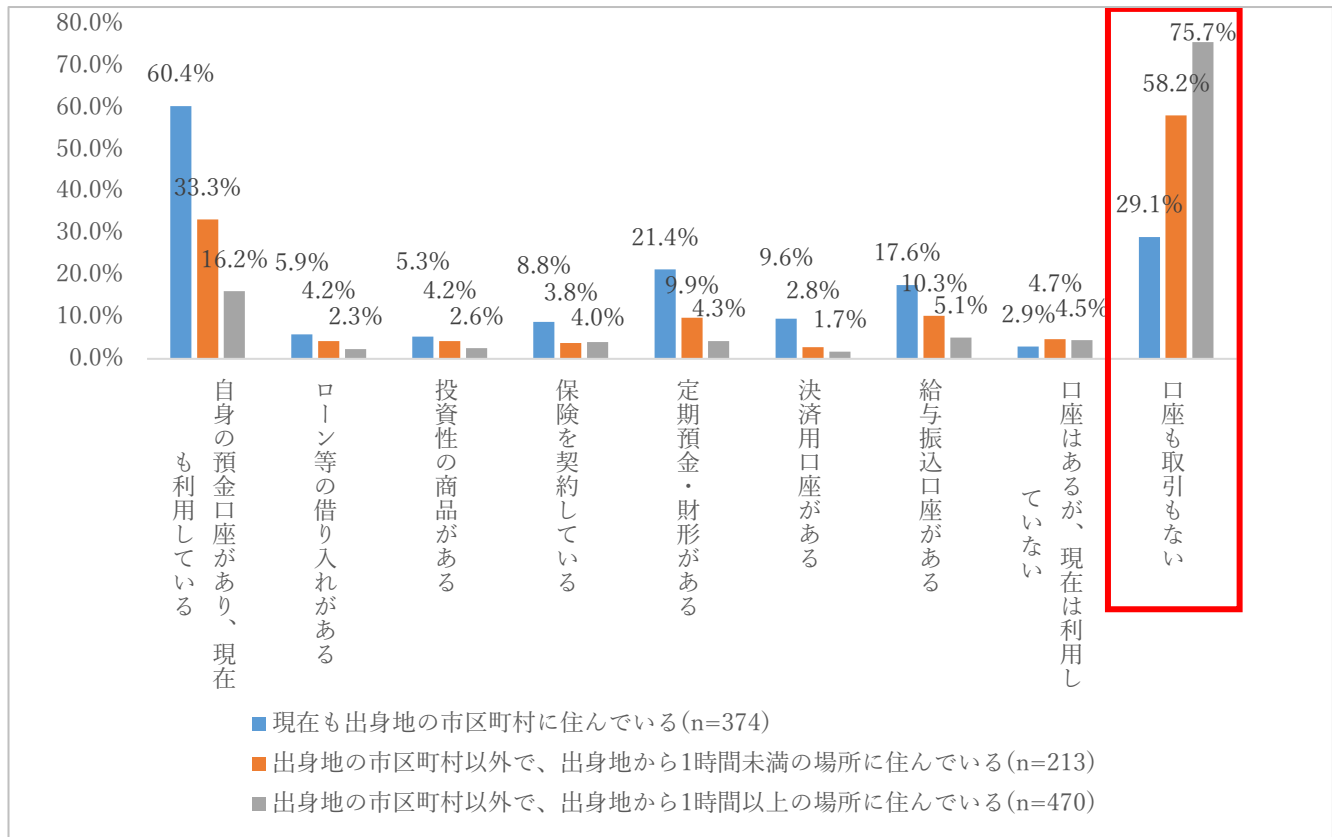
2-1. 地元の金融機関との関係性

- ◆ 都市部に居住する相続人世代では、現在の居住地が出身地から離れる程、出身地の地域金融機関の未利用割合が高い

都市部に居住する相続人世代において、出身地の地域金融機関(地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、等)と「口座も取引もない」との回答した割合は、現在の居住地が出身地から離れる程高くなっている。

特に、出身地から1時間以上の場所に居住する人では、同割合は75.7%に上っており、出身地の地域金融機関との関係は希薄となる状況が伺える。

【図表 2-1-1】出身地の金融機関との接点の有無

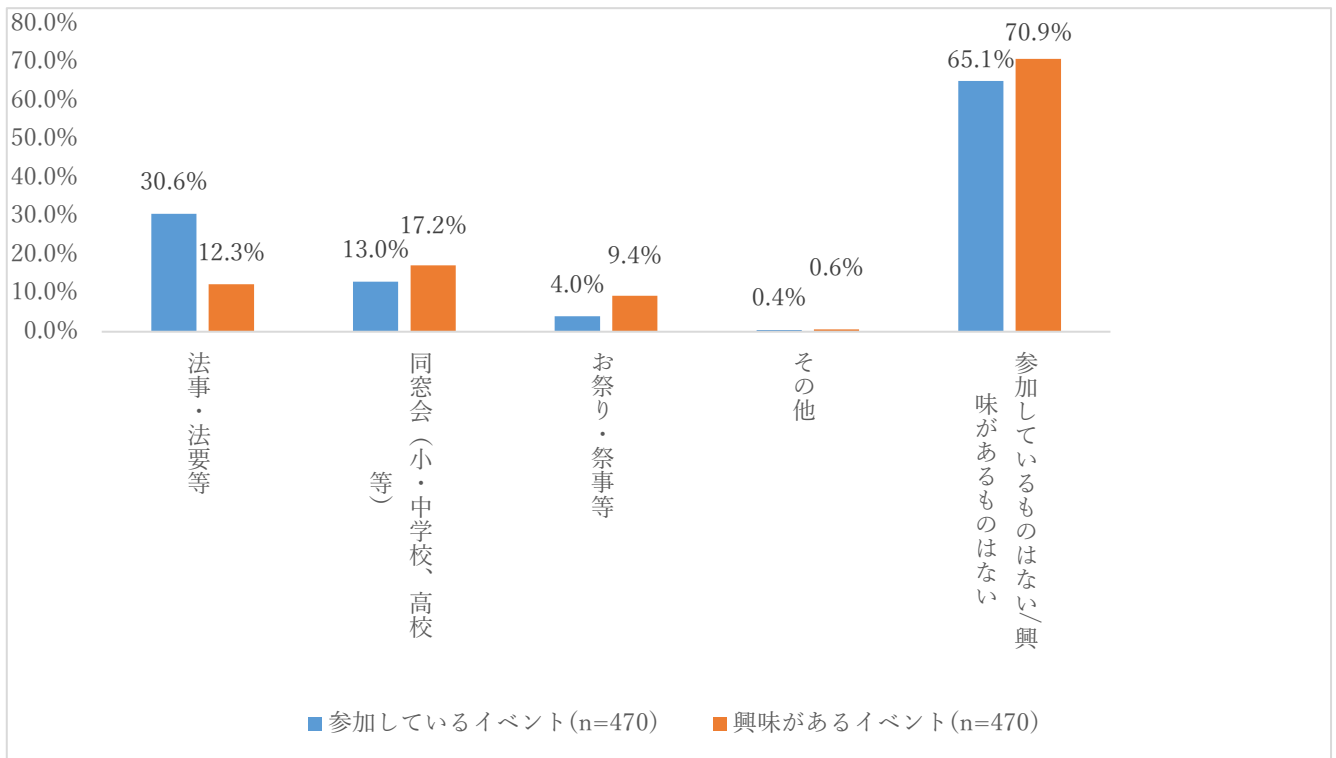


2-1. 地元のイベントに関する意向

- ◆ 出身地から離れて暮らす都市部居住者では、同窓会やお祭りに参加したい意欲・興味があるものの、実際には参加できていない回答者が一定数存在

出身地から1時間以上の都市部居住者では、出身地で開催されるイベントに興味があるとする回答(「同窓会(小・中学校、高校等)(17.2%)」、「お祭り・祭事等(9.4%)」)よりも、実際に参加しているとする回答(「同窓会(小・中学校、高校等)(13.0%)」、「お祭り・祭事等(4.0%)」)の割合が低く、興味があるものの参加できていない回答者が存在することがわかる。

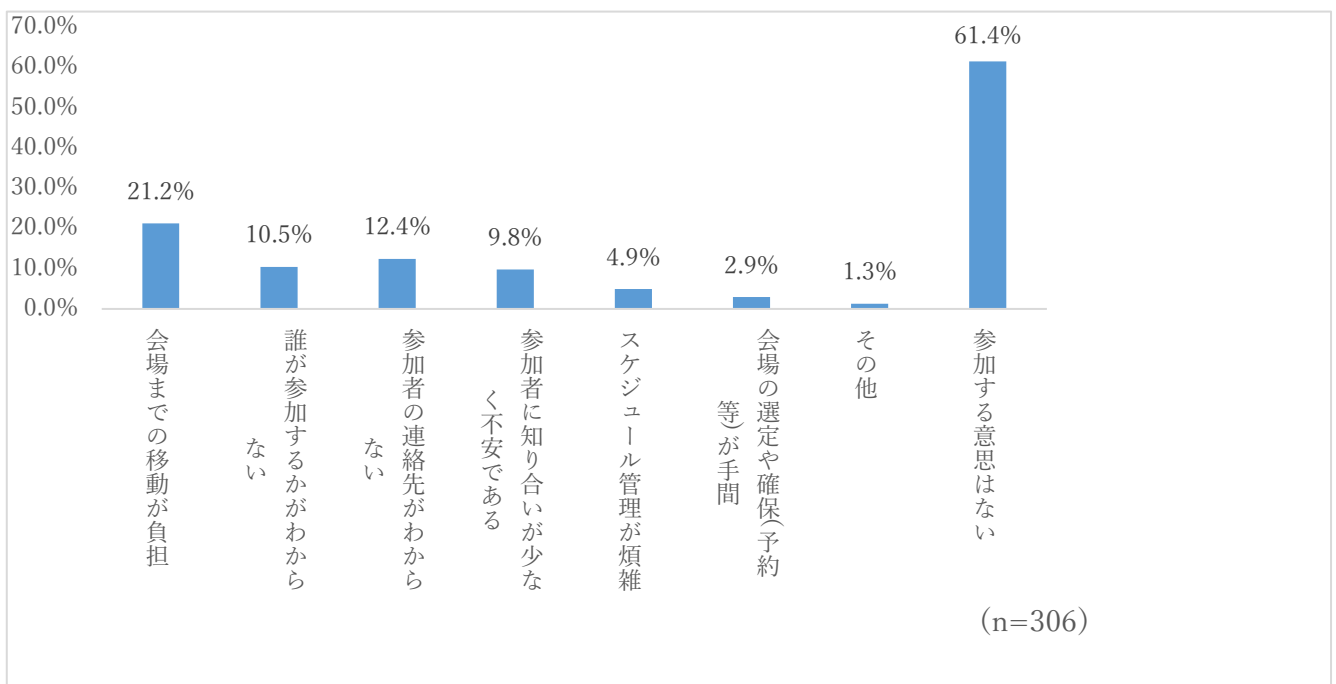
【図表 2-1-2】出身地でのイベントへの参加・興味の有無



◆ 出身地のイベントへ参加できない理由と、「参加する意思はない」以外では「会場までの移動」が最多

出身地のイベントに参加できない理由として、「参加する意思はない」が6割強(61.4%)となっている以外では、「会場までの移動が負担」が2割強(21.2%)と、最も大きい障害となっていることが伺える。

【図表 2-1-3】出身地のイベントに参加する際の障害

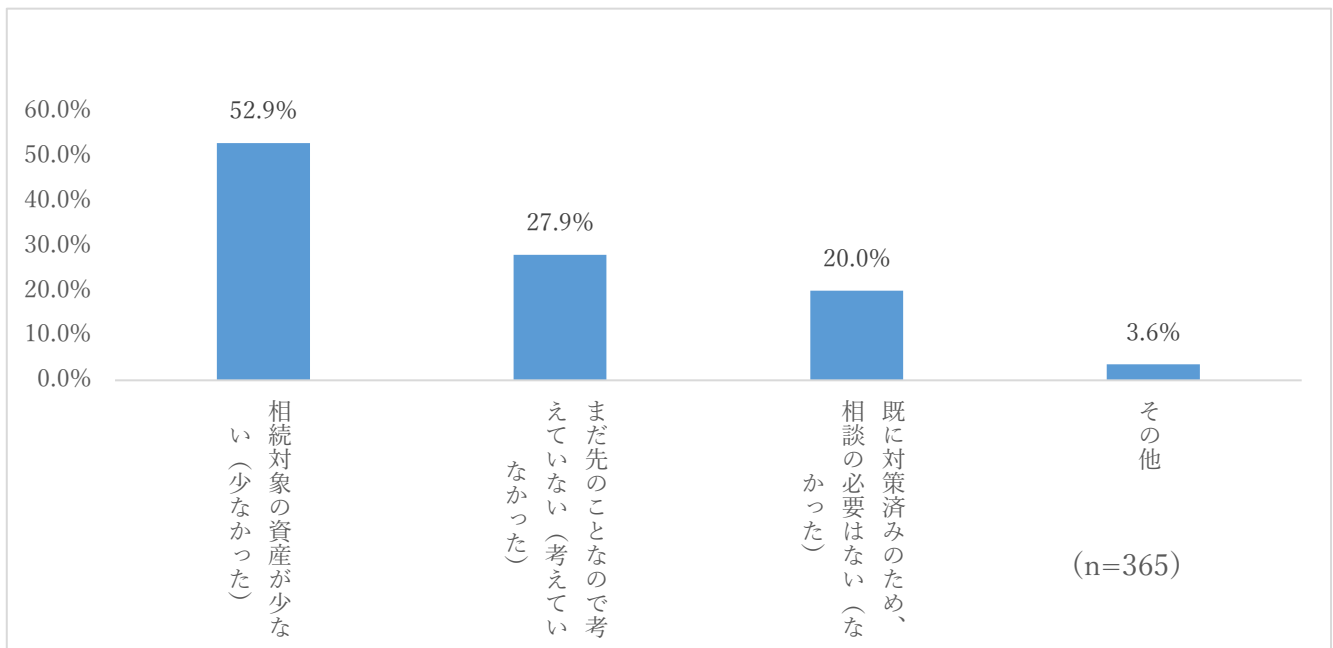


3. 相続相談に係る相続人世代の意向について

3-1. 自身の親との相談に係る意向

◆ 親との相続に関する相談の必要性を感じていない理由として、「相続対象の資産が少ない(少なかった)」が最多
親との相続に関する相談の必要性を感じていない理由として、半数以上(52.9%)が「相続対象の資産が少ない(少なかった)」と回答している。

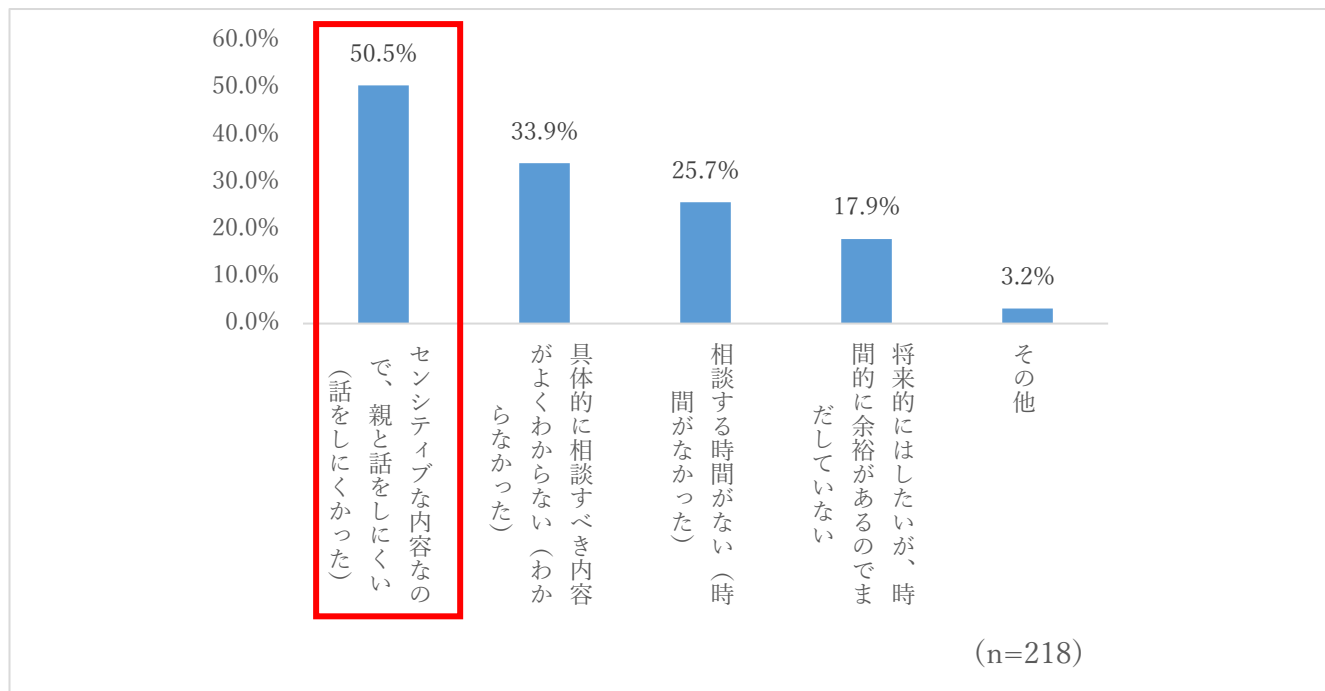
【図表 3-1-1】親との相続相談の必要性を感じていない理由



◆ 親と相談する必要性を感じていても、親と相談できていない(いなかった)理由として、5割以上が「センシティブな内容なので、親と話をしにくい(話をしにくかった)」と最も多い

親と相続について相談する必要性を感じていても、親と相談できていない(いなかった)理由として、5割以上(50.5%)の回答者が「センシティブな内容なので、親と話をしにくい(話をしにくかった)」を挙げており、次いで「具体的に相談すべき内容がよくわからない(わからなかった)」が3割強(33.9%)となっている。

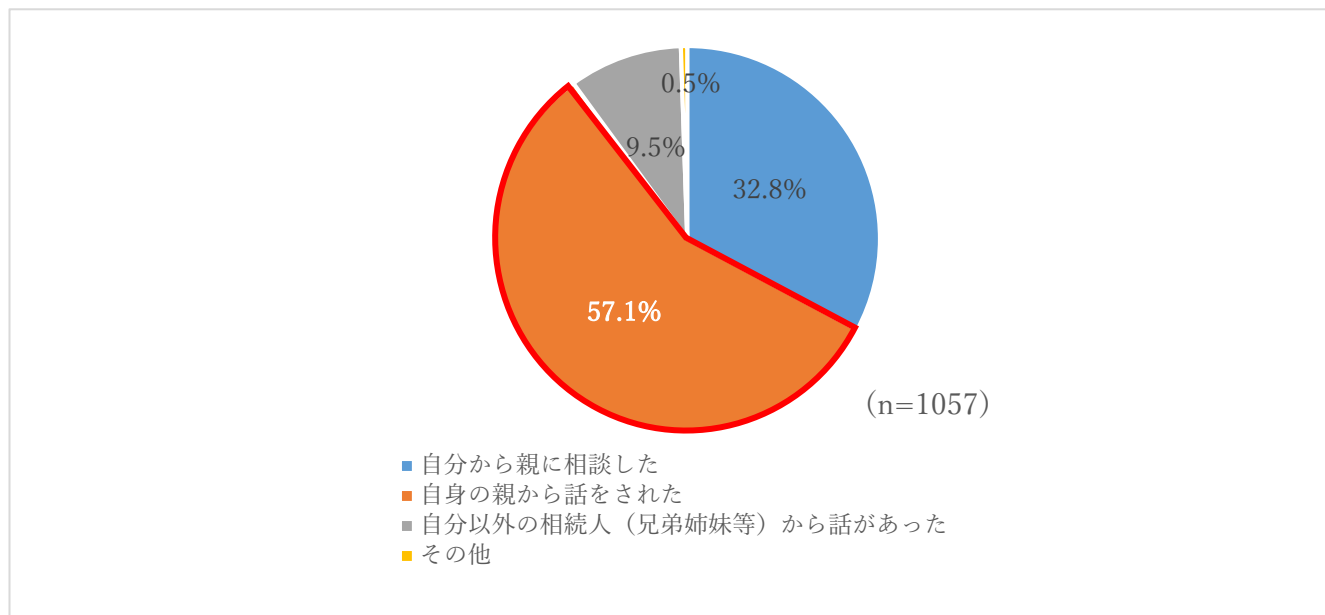
【図表 3-1-2】親との相続相談を実施していない理由



◆ 親と相続について相談したきっかけは、「自身の親から話をされた」ことが 6 割近くとなり最多

親と相続について相談している人において、6 割近く(57.1%)が「自身の親から話をされた」ことをきっかけに相談を始めており、「自分から親に相談した」人は約 3 割(32.8%)に留まっている。

【図表 3-1-3】親との相続相談を始めた人物



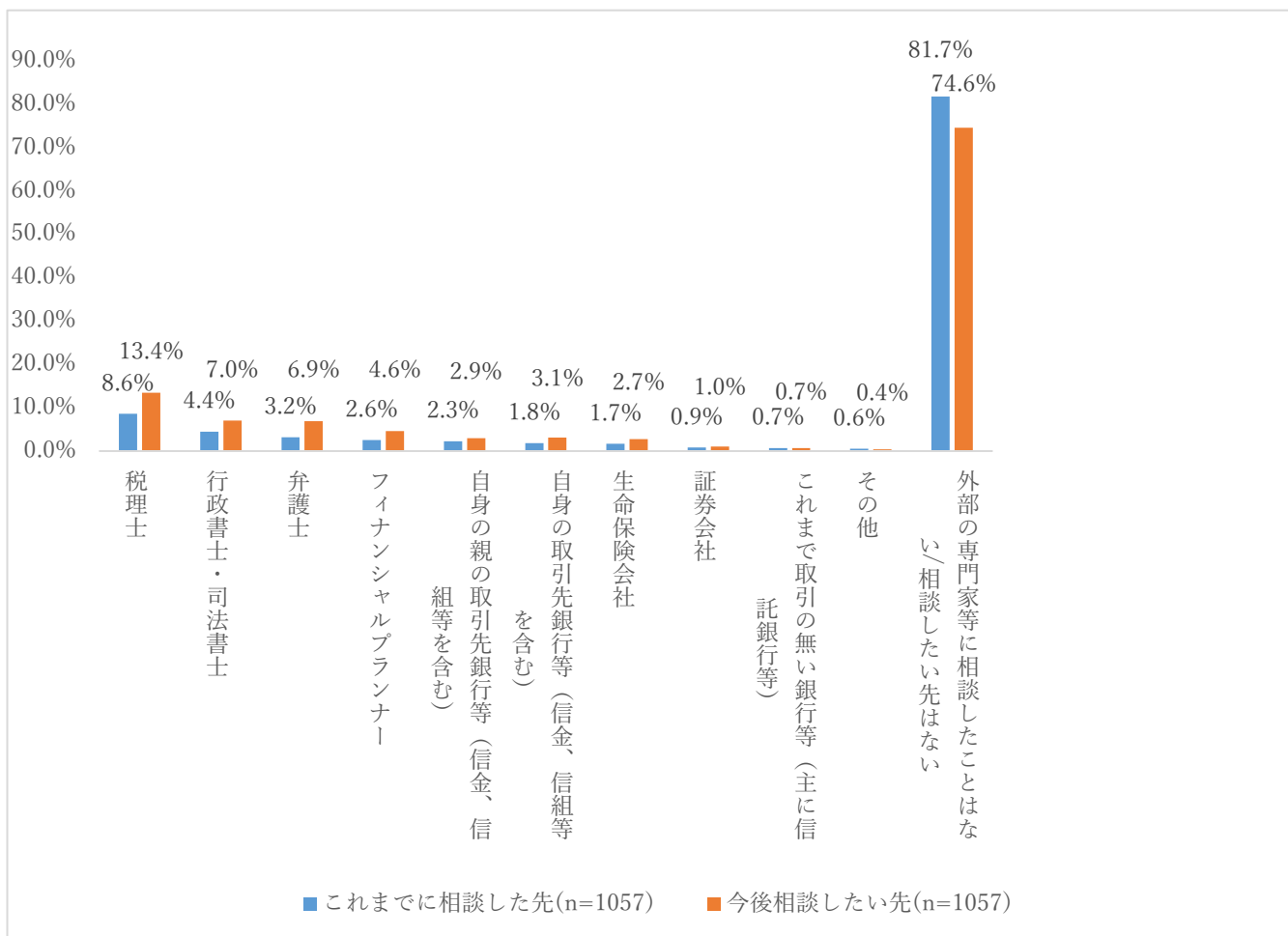
3-2. 相続に関する外部専門家との相談

- ◆ 相続に関する外部専門家への相談経験と相談意向については、経験がない/意向がない人を除くと、どちらも「税理士」が最多

相続に関する外部専門家との相談について、これまでに相談した先として挙げられている外部専門家は「税理士(8.6%)」「行政書士・司法書士(4.4%)」「弁護士(3.2%)」の順となっている。

また、今後相談したい先として挙げられている外部専門家についても同様に、「税理士(13.4%)」「行政書士・司法書士(7.0%)」「弁護士(6.9%)」の順となっており、士業への相談意向が高いことがわかる。

【図表 3-2-1】相続に関する外部専門家への相談経験/相談意向



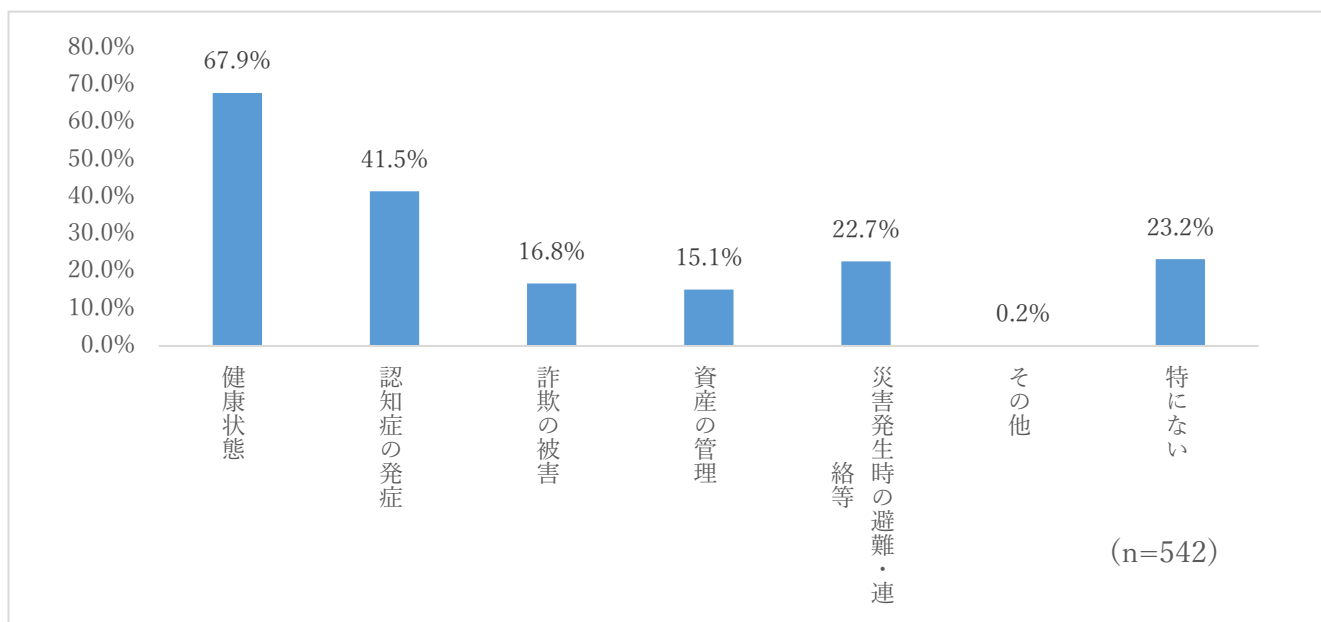
4. 離れて暮らす親に対する不安・課題

4-1. 現在直面している不安

◆ 離れて暮らす親に対して健康状態を不安に感じている人は7割近くにまで及ぶ

自身の親と離れて都市部に居住している相続人世代が、親に関して感じている不安については「健康状態」との回答が7割近く(67.9%)と最も多く、次いで「認知症の発症」が4割強(41.5%)となっている。

【図表 4-1-1】別居している親に関する不安/心配

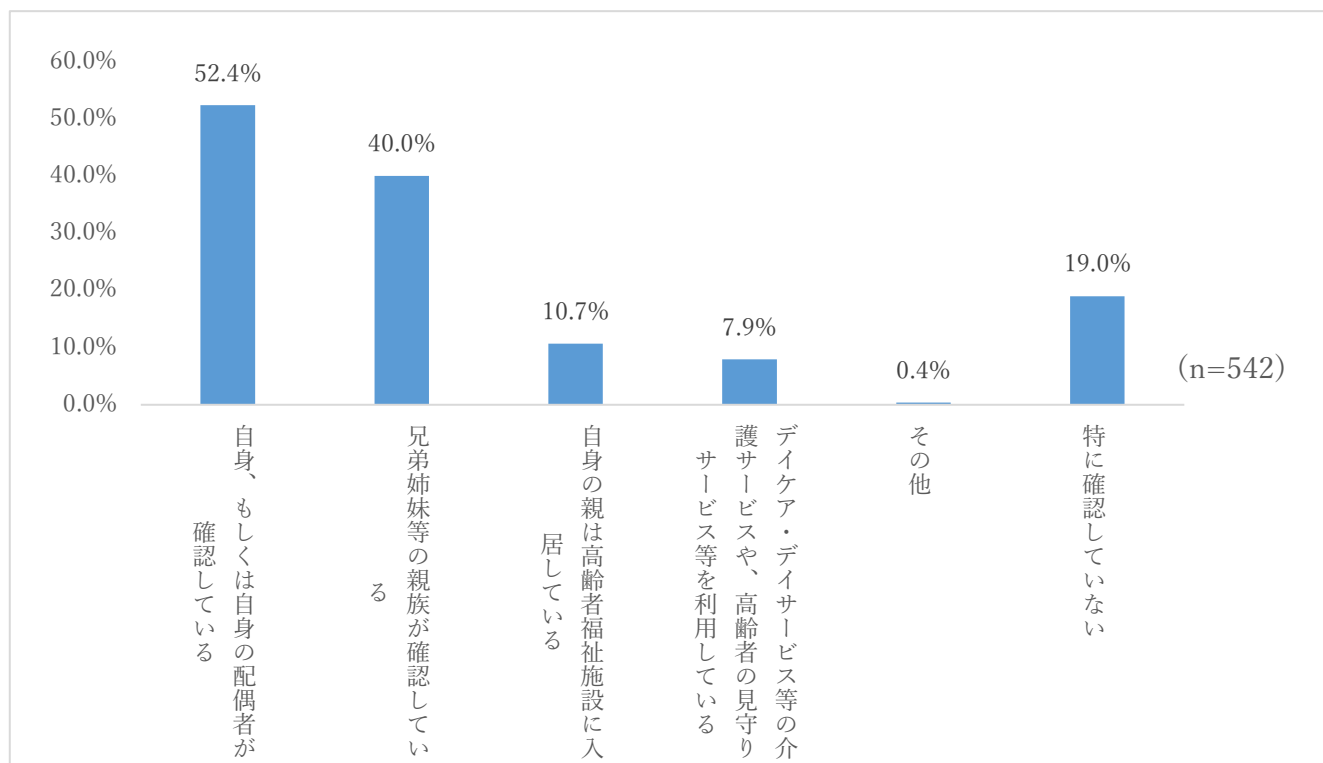


4-2. 健康状態に関する不安

◆ 親と離れて暮らす人のうち、自身(または配偶者)が親の安否(健康状態や暮らしぶり)を定期的に確認している割合は5割程度

親と離れて暮らしている人における親の安否(健康状態や暮らしぶり)の確認について、「自身、もしくは自身の配偶者が確認している」とした回答は5割程度(52.4%)となっている。

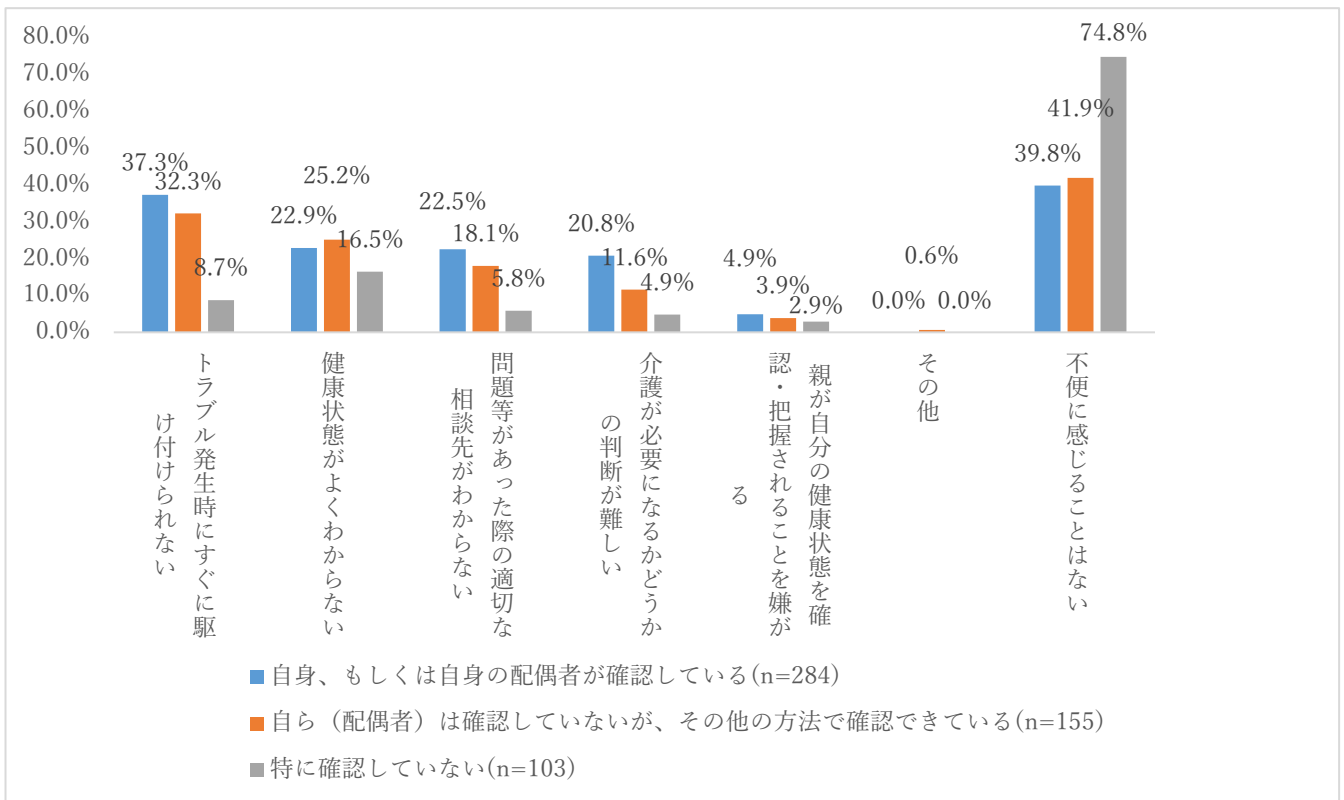
【図表 4-2-1】別居している親の安否(健康状態や暮らしぶり)確認状況



- ◆ 離れて暮らす親の健康状態を確認する際の不便なこととして、「特に確認していない」を除くと、「トラブル発生時にすぐに駆け付けられない」とする回答が最も多い

離れて暮らす親の健康状態を確認する際に不便に感じることとして、「特に確認していない」を除くと、「トラブル発生時にすぐに駆け付けられない」が最多であり、次いで「健康状態がよくわからない」となっている。

【図表 4-2-2】別居している親の健康状況確認時に不便なこと

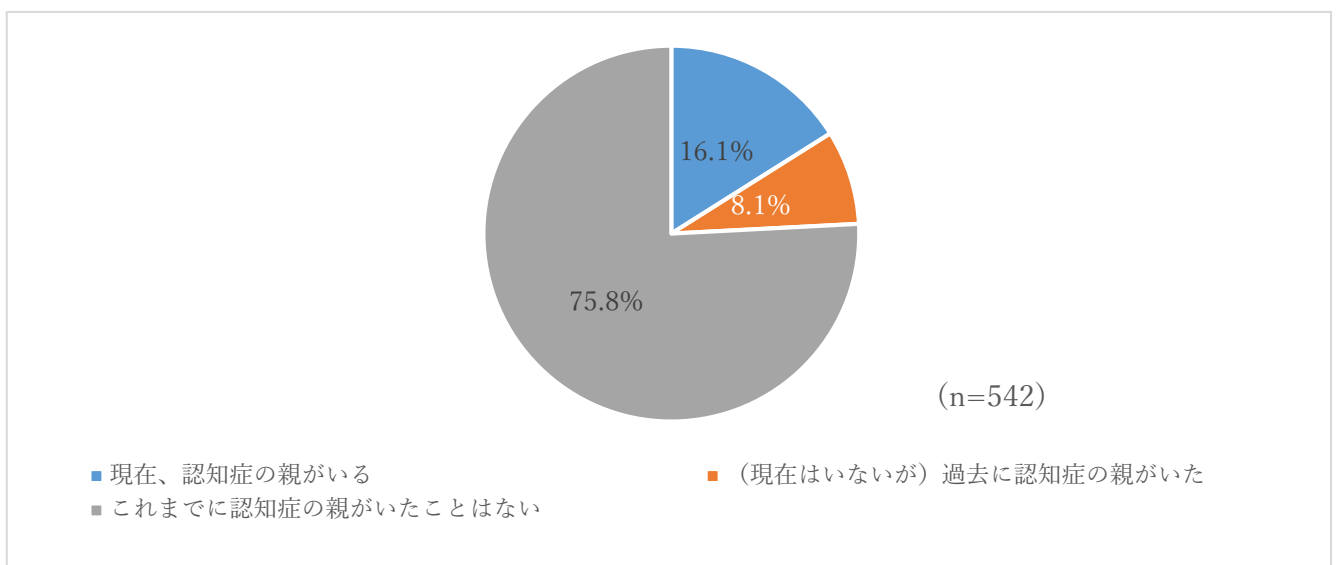


4-3. 認知症に関する不安

◆ 親と離れて暮らす人の中で、現在認知症の親がいる人の割合は1割5分強

自身の親と離れて都市部に暮らす相続人世代のうち、「現在、認知症の親がいる」人の割合は1割5分強(16.1%)となっている

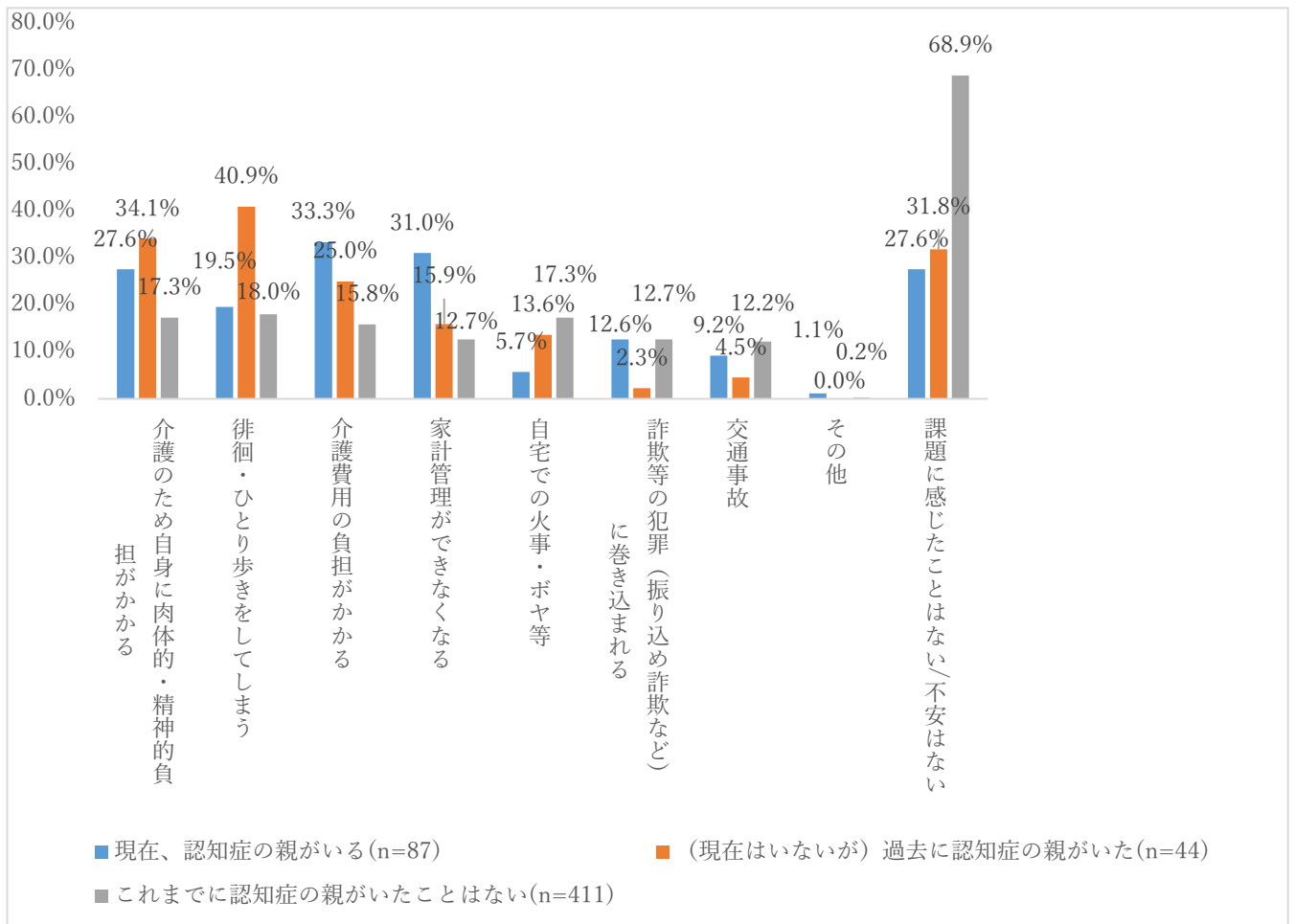
【図表 4-3-1】別居している親の認知症発症状況



- ◆ 実際に認知症の親がいる・いた人のうち一定数が「介護のため自身に肉体的・精神的負担」「徘徊・ひとり歩きをしてしまう」といった課題に遭遇した一方、これまで認知症の親がいた経験のない人のうち7割弱が親の認知症について不安を感じていない

現在認知症の親がいる、もしくは以前認知症の親がいた人が遭遇した課題として「介護のため自身に肉体的・精神的負担がかかる」や「徘徊・ひとり歩きをしてしまう」との回答が挙げられている。一方で、これまで親の認知症を経験していない人では、7割弱が「課題に感じたことはない/不安はない(68.9%)」と回答している。

【図表 4-3-2】親の認知症発症時における課題/不安

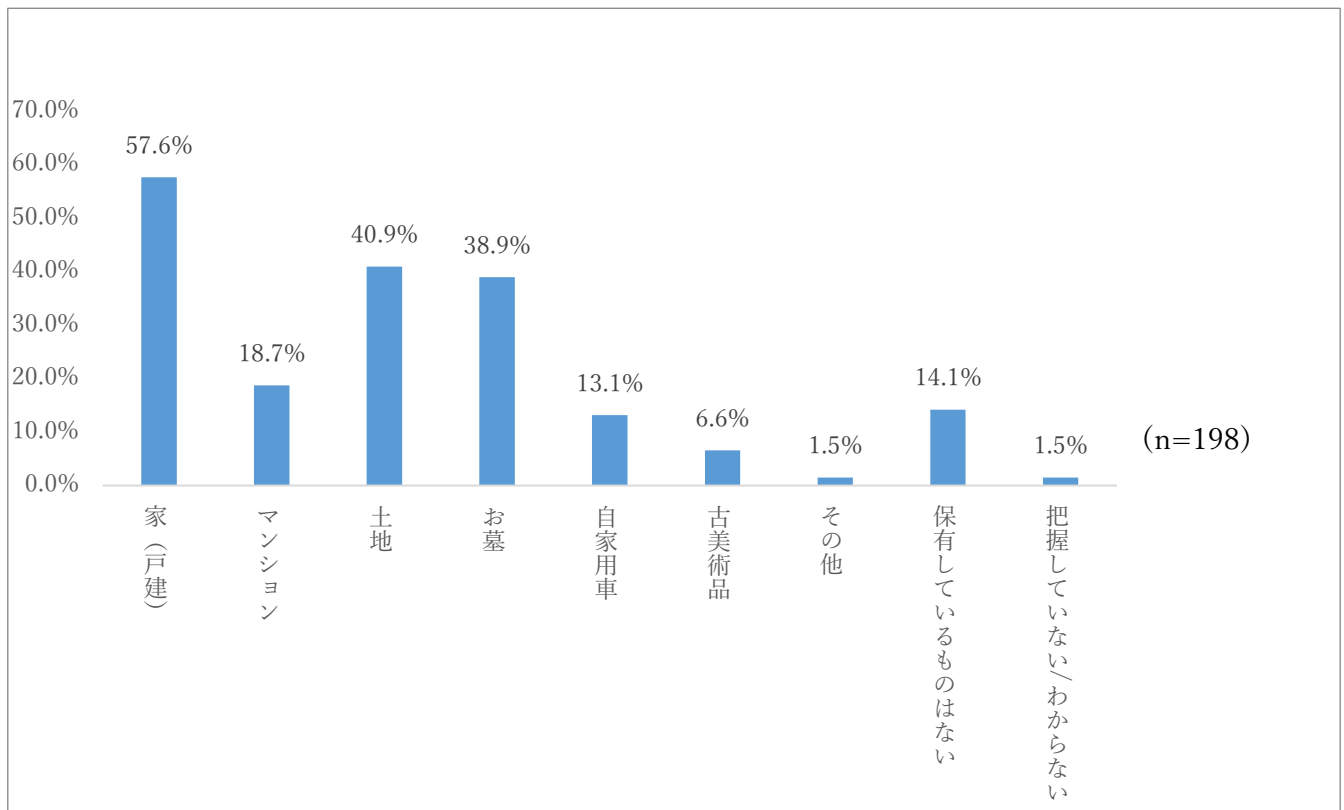


5. 離れて暮らす親が保有する資産

◆ 離れて暮らす親が保有している資産(金融資産を除く)としては、「家(戸建て)」が6割程度と最多

離れて暮らす親が金融資産以外で保有している資産としては、「家(戸建て)」で6割程度(57.6%)と最も多く、「土地(40.9%)」「お墓(38.9%)」がそれに続いている

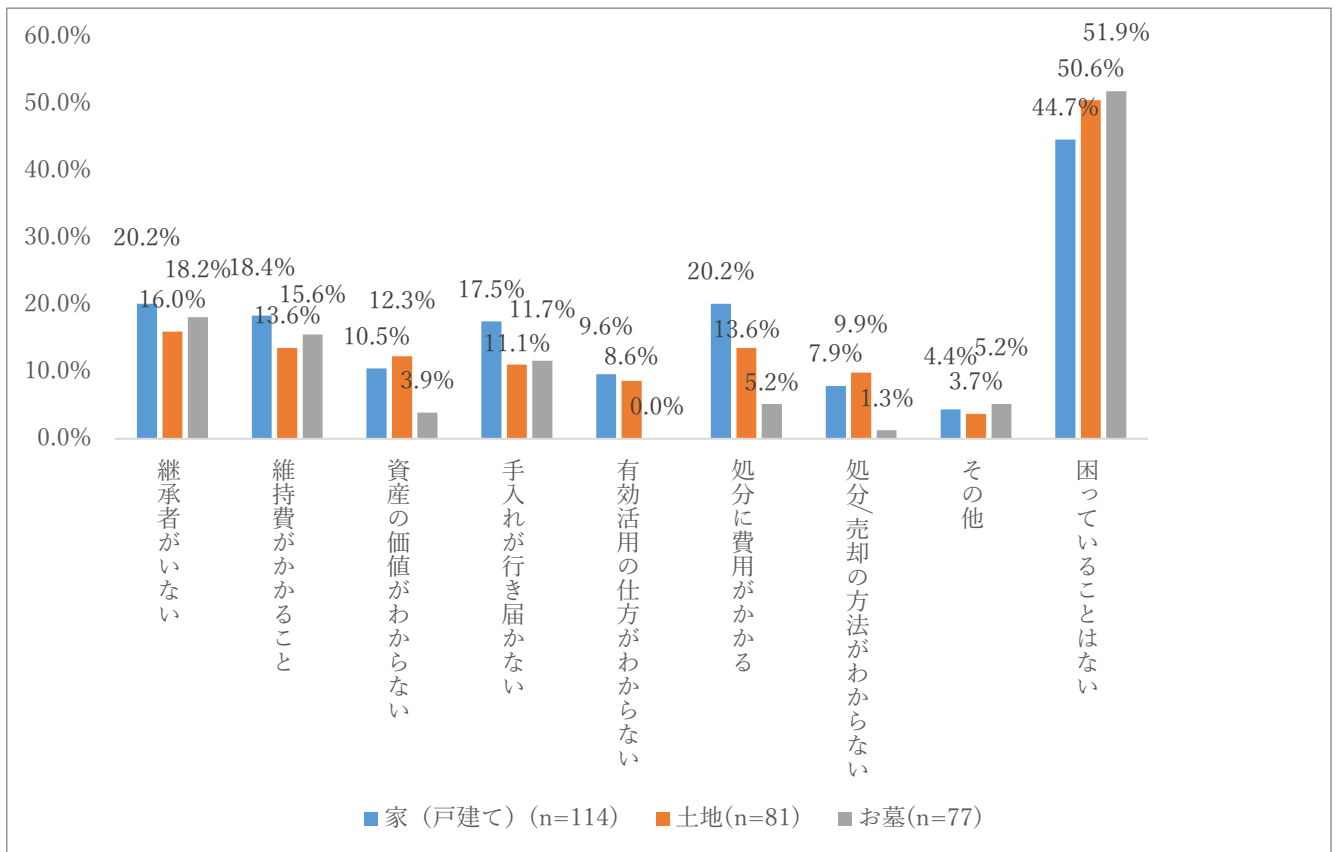
【図表 5-1-1】別居している親が保有する資産(金融資産を除く)



◆ 親が保有する「家(戸建て)」について困っていることとして、「継承者がいない」「処分に費用がかかる」との回答がそれぞれ2割程度

離れて暮らす親が保有する割合が高い「家(戸建て)」について困っていることとして、それぞれ2割程度が「継承者がいない(20.2%)」こと、「処分に費用がかかる(20.2%)」ことを挙げている。

【図表 5-2-2】親が保有する資産に関する困りごと



<調査結果の利用について>

本調査は、株式会社NTTデータ経営研究所とNTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が共同で行っており、本調査結果の著作権は、株式会社NTTデータ経営研究所とNTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が保有します。

調査結果の一部を転載・引用される場合は、出所として「NTTデータ経営研究所/NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション」または「NTTデータ経営研究所/NTTコム リサーチ」と併記した上で、掲載日・掲載媒体・引用箇所などの情報につきましては広報担当までお知らせください。

調査結果について、出所を明記せずに転載・引用を行うこと、データの一部または全部を改変することなどの行為はご遠慮ください。

本アンケート調査の生データは提供いたしかねます。

*本レポートに記載の商品名、会社名、団体名は、各社の商標または登録商標です。

【本件に関するお問い合わせ先】

<p>■ 報道関係のお問い合わせ先</p> <p>株式会社NTTデータ経営研究所 コーポレート統括本部 業務基盤部 広報担当 Tel:03-5213-4016 E-mail : webmaster@nttdata-strategy.com</p>	<p>■ 内容に関するお問い合わせ先</p> <p>株式会社NTTデータ経営研究所 金融経済事業本部 金融政策コンサルティングユニット シニアスペシャリスト 上野 博 シニアマネージャー 加藤 洋輝 シニアマネージャー 菊重 琢 マネージャー 安原 健司 Tel:03-5213-4115</p>
---	--